

関係各位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

令和元年度病虫害発生予察特殊報第 1 号を送付します。

令和元年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

- 1 病虫害名 ツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda*)
- 2 発生物種 トウモロコシ (スイートコーン)
- 3 発生経過

令和元年 8 月 9 日に県内のスイートコーンほ場において、チョウ目幼虫による被害を確認した (写真 1、2)。食害部から採取した幼虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、ツマジロクサヨトウであることが判明した (写真 3)。

本種は、アメリカ、アフリカ、アジア (インド、中国、台湾、韓国等) に分布しており、トウモロコシやイネなどのイネ科植物のほか、アブラナ科、ナス科、ウリ科など幅広い作物に寄生する。

日本国内では、本年 7 月に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初発生が確認され、その後、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、沖縄県、佐賀県でも発生が確認されている。これまでのところ、国内での発生は飼料用トウモロコシが主であるが、スイートコーンやソルガムでも確認されている。

- 4 形態・生態

成虫は開張約 37mm、雌雄で外観が異なり雄のみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋がある (写真 4)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ雌の体毛で覆われる。終齢幼虫の体長は約 40mm、頭部中央の逆 Y 字が淡色で (写真 5)、尾部の刺毛基盤 (黒色斑点) が隆起している (写真 6) のが特徴である。

本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産であり、熱帯では年 4～6 世代発生する。南北アメリカでは夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬できないとされている。

- 5 被害状況

幼虫が茎、葉、花、果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

- 6 防除対策

- 1) 多発すると被害が拡大する恐れがあるため、早期発見に努めるとともに、発生を確認したほ場では表に記載した農薬による防除を行う。
- 2) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘する。

お問合せは、病虫害防除所 (TEL: 088-863-1132) または環境農業推進課 (TEL: 088-821-4861) まで

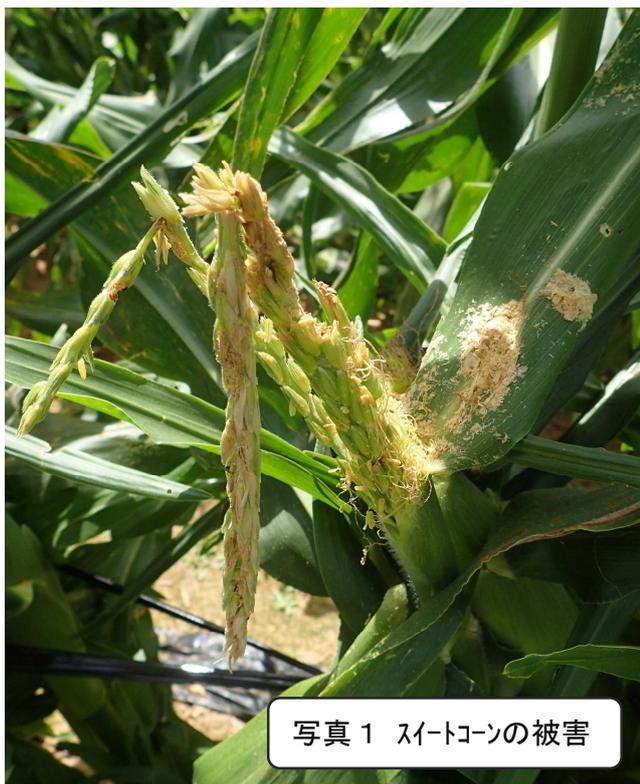


写真1 スイートコーンの被害



写真2 スイートコーンの被害



写真3 ツマジノカガヤク幼虫



写真4 ツマジノカガヤク成虫(左側が雄(植物防疫所HPより))



写真5 ツマジロウサヨトウ幼虫(頭部)



写真6 ツマジロウサヨトウ幼虫(尾部)

表 未成熟ツマジロウサヨトウ(スイトコウ)に登録のあるチョウ目害虫(アヲヨトウ、アノメカガ、オオバカガ等)防除剤  
(高知県病害虫防除指針より抜粋)

系統	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数
合成ピレスロイド	アクロリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内
ネイストキン	バダソSG水溶剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内
有機リン	イルサン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで	4回以内
ジアミド	フェニックス顆粒水和剤	2,000~4,000倍	収穫前日まで	2回以内
	プロバリンプロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
マクロライド	アファーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
BT	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期、但し収穫前日まで	-

上記の農薬はツマジロウサヨトウに対する登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用する農薬として使用できます。

#### 植物防疫法第29条第1項

有害動物又は有害植物がまん延して有用な植物に重大な損害を与えるおそれがある場合において、これを駆除し又はそのまん延を防止するため必要があるときには、都道府県は植物を検疫し又は有害動物若しくは有害植物の防除に関し必要な措置をとることができる。